

## 平成 30 年度事業計画

[はじめに]

公益社団法人長寿社会文化協会は、「ともに働き、社会に役立ち、元気に学び、もっと楽しもう」、「多世代の市民参加による長寿社会の活性化」の理念のもと、明るく元気で活力ある長寿社会の構築と発展に寄与することを目指しています。

我が国は、諸外国に例をみないスピードで高齢化が進展しており、65 歳以上の人口は、現在国民の 3,000 万人（約 4 人に 1 人）を超えており、団塊世代 800 万人が 75 歳以上となる 2025 年以降は、国民の医療や介護の需要がさらに増加することが見込まれています。このため、我が国においては、2025 年を目処に、高齢者の尊厳の保持と自立支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを最後まで続けることができるように地域包括ケアシステムの構築を推進しています。

当協会としても、我が国が直面するこれらの問題に対し、介護人材育成、認知症対応、社会参加等による生き甲斐づくり・地域の活性化、また介護予防事業などの分野で牽引的役割を發揮し、地域包括ケアシステムの実現に貢献していきます。また、介護人材不足は現在及び将来にわたって我が国が直面する問題であり、厚生労働省は対策として「多様な人材の確保と生産性の向上」を打ち出しています。総合事業における高齢者等の活用に加え、生活援助に特化したヘルパーの養成、ICT の活用などによる効率化を推進するとしています。設立以来、介護人材の育成に取り組んできた本協会としても、平成 30 年度から始まる新しい生活援助ヘルパー養成研修に経験を活かして対応していきたいと思えます。

平成 29 年度は事業規模目標 2 億円を達成しました。平成 30 年度も事業規模目標を 2 億円また WAC 会員拡大に向けた魅力ある WAC づくりを検討していきます。重点取組みとしては、公益事業の「第三者評価事業」「コミュニティカフェ事業」推進はもとより、収益事業である「研修事業」「疑似体験事業」については更なる収益基盤の強化を図ります。また、会員継続・法人会員含む会員獲得に向け各種研修会・セミナー等開催、会報誌「ふれあいねっと」を通じた会員情報発信等の対応強化をしていきます。

一方、公益事業の柱である「千葉県福祉ふれあいプラザ指定管理事業」では、千葉県高齢者保健福祉計画の基本理念・施策の推進方策に沿って重点課題に取り組めるよう自治体や地域包括支援センターの現状を把握して課題に応えられる事業を進めます。かつ、第 4 期指定管理(2019 年 4 月 1 日～)獲得に向け着実に実績づくりを行います。また港区アクティブシニア就業支援センター「みなと＊しごと 55」においては、引き続き都内アクティブシニア就業支援センターの中でトップクラスの取り組みを実施していきます。

## 会員に関して

会員拡大は本協会の基本的な課題であり、既存会員の退会防止に努めるとともに新規会員の拡大が重要施策となります。個人会員拡大は、ポイントづくりと併行して推進し「コミュニティカフェ事業」「生活支援サービス研修事業」等により個人会員拡大を図ります（個人正会員数目標 160 人）。また、法人会員については、「研修事業」「高齢者疑似体験事業」等により新規法人会員の拡大を図ります（新規法人賛助会員数目標 10 社）。以上の達成のため、プロジェクトチームを立ち上げ推進していきます。

(単位=千円)

収入予算	支出予算	収支残
4, 0 0 0	2 0 0	3, 8 0 0

## 事業に関して

### 【公益目的事業】

#### 〔公1事業〕

#### ＜高齢者福祉増進・啓発事業＞

#### ○高齢者の福祉・健康・生きがいづくり等支援事業

##### （千葉県福祉ふれあいプラザ指定管理）

平成 29 年度は、千葉県高齢者保健福祉計画の基本理念・施策の推進方策に沿って重点課題（特に地域包括ケアシステムの構築）に取り組めるよう自治体や地域包括支援センターの現状を把握して課題に応えられる事業を進めました。また、第 4 期指定管理(2019 年 4 月 1 日～)に向けた実績づくりに向けた取組みを実施しました。平成 30 年は第 4 期指定管理申請そして獲得の年です。29 年度事業の継続取組みを強化し着実な実績づくりをしていきます。

#### 1) 介護実習センター

平成 30 年度は、市町村との連携を深め地域の実情に合った出張県民研修を積極的に行います。高齢者の居場所づくりとして実施している「認知症助け合いカフェ」「地域の茶の間」「認知症の人と家族の集い」は、認知症カフェを「地域の茶の間プレミアム」として、回数を増やして「地域の茶の間」と一体化させて参加者数増加を目指します。なお、事業の目的である引きこもり予防、認知症の人を含めた地域での見守りについて啓発に努め、介護相談事業と合わせた取組みを強化します。

#### 2) 介護予防トレーニングセンター

平成 30 年は、千葉県から利用者数 43,000 人の目標値が設定されました。平成 28 年度から開始した認知症予防講習「ピンピンキラリ初歩麻雀」は参加者拡大、介護予防担当者研修は認知症地域支援推進員対象研修を新設し参加者拡大を目指します。また、医療系大学学生の実習受入の拡大を含め、期待目標値 43,000 人達成に努めます。

#### 3) ふれあいホール

平成 29 年度に引き続き利用者満足度の向上を図るとともに、高齢者に配慮したサポート、安全管理を行います。また什器備品の経年劣化対策は県との交渉を含め継続対応していきます。さらにホールを利用した地域交流事業を発展させます。

(単位=千円)

収入予算	支出予算	収支残
87,300	87,300	0

## ○福祉サービスの質の向上事業

### (第三者評価事業)

平成29年度は、福祉サービス第三者評価を46件、利用者調査8件を実施しました。当初の計画からみると収入は大幅に上回りました。しかし、収益構造等事業の中期計画(29～31年度)に基づく事業基盤の確立については、達成できていません。

30年度は、東京都の評価項目が第三者評価制度始まって以来の大きく変更されます。また、事業者は、関係法令等(障害、保育指針、介護保険)の大きな改正、人材不足等により、安定的経営や利用者の権利擁護強化等への取組みに迫られています。第三者評価制度もそれらに対応したレベルアップが求められます。

WACの第三者評価事業も、これらの背景、反省の上に立って、事業化の原点に立ち戻り、安定した運営のための事業基盤作りに向け、中期計画の確実な達成を目指します。

### 30年度事業計画

#### 基本方針

1. 1件々々、質の高い評価を行うべく評価件数を絞る
2. 事業基盤の確立と総合的評価力のアップを図る

#### 目標

件数25件、収入7,500千円、収支ゼロ

#### 重点課題

1. 事業基盤の確立
  - ・民間受審先開拓
  - ・事務局体制の整備
2. 総合的評価力のアップ
  - ・評価者の確保(量)
  - ・WACの評価報告書と評価手法(質)
  - ・評価者と事務局の業務分担の明確化

(単位=千円)

収入予算	支出予算	収支残
7,500	7,500	0

## ○長寿社会の啓発事業

### （「ふれあいねっと（会員向け情報誌）」の発行）

会報誌「ふれあいねっと」は平成 29 年度は諸事情により、年 1 回の発行に留まりましたが、平成 30 年度は年 6 回発行を目指します。会員と本部との繋がりを「見える化」し、全国のポイント、ネットワークセンターとの情報交換を密にして全会員へ情報を伝達するとともに興味を持ちそうなコーナーを設置して「俳句」「川柳」なども掲載していきます。また、法人会員へは訪問し対談など共同活動を実施して企業紹介等していきます。今後は、新規会員ツールとして一層の広報体制強化を図っていきます。

(単位=千円)

収入予算	支出予算	収支残
0	3,000	▲3,000

## 【公2事業】

### ≪高齢者の雇用・支援事業≫

#### （「みなと＊しごと55」港区アクティブシニア就業支援センター）

平成 30 年度は各求人先においても人手不足等の影響もあり、自力就業が増加、来所求職者数が減少傾向にあります。

このような環境の中、具体的取り組みとして、港区や他団体との協力体制の強化、広報みなと等への告知、ポスティング、新聞折り込み、ホームページの拡充等によりさらに認知度を高めるとともに、多くの求職者が集まるように魅力ある企画を実施していくと共に、マッチングの制度を高めていくことに努力していきます。

#### <目標>

就職数：220 人 求人開拓件数：1,600 件 求人開拓延人数：3,300 人

求職者数：2,200 人（新規：1,000 人、再来：1,200 人）

(単位=千円)

収入予算	支出予算	収支残
24,604	24,604	0

## 【公3事業】

### ≪地域の相互扶助機能活性化事業≫

#### （コミュニティカフェ）

平成 29 年度はコミュニティカフェ開設講座を東京で 1 期、認知症カフェ・ケアラーズカフェ開設講座を 1 期、千葉県ふれあい福祉プラザの出張県民研修として 1 期行い、3 月には全国交流会開設講座発表会を開催しました。

平成 30 年度は、コミュニティカフェに関心が高い団体・介護事業者への呼びかけを強化し、開設講

座を1期、状況によっては2期開催し、さらなるコミュニティカフェ事業推進によりポイント及び会員の拡大を図っていきます。また、既にコミュニティカフェを運営している方向けの運営見直し講座を2回と全国交流会のほかに、自治体の講座の企画・運営、講師派遣にも取り組んでいきます。

(単位=千円)

収入予算	支出予算	収支残
790	490	300

## 【収益目的事業】

### 〔収1事業〕

#### 《高齢者福祉関係人材育成事業》

##### ・生活支援サービス研修

昨年度に引き続き日常生活支援研修を実施していきます。

東京しごと財団より生活支援サービス研修、府中市「介護予防・日常生活支援総合事業における生活支援サービス研修」、八王子市「生活支援ヘルパー」の研修を行います。

収入予算 3,000千円

##### ・受託研修

東京しごと財団より受託し就労支援に向けた研修を行います。

収入予算 21,550千円

##### ・その他研修

助成金事業申請により研修を受託する。

収入予算 5,450千円

(単位=千円)

収入予算	支出予算	収支残
30,000	20,000	10,000

### 〔収2事業〕

#### 《高齢者・認知症疑似体験事業》

##### ・高齢者疑似体験事業

平成30年度においても、営業推進とWACの強みである質の高い研修の提供を継続的に行うため、綿密な情報の共有化と役割分担を明確にして事業展開を行います。

既存のうらしま購入先や研修実施先に対し、疑似体験の活用方法に関する情報提供や特別価格販売のお知らせなど年に数回のフォローを継続するとともに、効果的な情報発信を行い新規顧客の獲得につながるよう、WACのホームページのリニューアルを検討します。営業取組みとしては、昨年度、パ

イロット研修を本社で実施した生命保険会社やマンション管理会社に向けて、全国展開できるよう働きかけます。また、認知症疑似体験の展開とからめて、社会福祉協議会や自動車学校にむけて、高齢者疑似体験導入の提案を行います。

#### ・認知症疑似体験事業

認知症疑似体験事業は、昨年度、認知症疑似体験への注目と相まって、研修依頼が急増しました。この好機をとらえ、社会問題となっている認知症高齢者の自動車運転をテーマにしたプログラム等、VR（ヴァーチャルリアリティ）対応の新しいプログラムを研究・開発して、事業拡大に取り組みます。

(単位=千円)

	収入予算	支出予算	収支残
高齢者疑似体験	17,000	9,000	8,000
認知症疑似体験	4,000	3,200	800

#### 〔収3事業〕

#### 《介護予防委託事業》

##### (品川区委託事業)

認知症、高齢者引きこもりの予防、生きがい・仲間作りの支援のため、自治体から介護予防事業として委託を受け、引き続き取り組みます。

(単位=千円)

収入予算	支出予算	収支残
7,000	6,900	100

#### ・健康マージャン

高齢者の仲間づくり、生きがいづくりとして自治体と協働でのマージャン教室の運営を継続していきます。

#### ・男の手料理教室、わくわくクッキング、食事処

事業は13年目を迎え、高齢者の介護予防事業として、東京ガスと協同で行っている品川区の委託事業です。教室受講生も運営する人も高齢者であり、料理を通じて、生きがい、健康、仲間づくりができており、介護予防事業として評価されています。平成30年度も引き続き継続実施します。

以上